



ロウムカフェ



社会保険労務士法人 ハーモニー／代表社員 徳永 康子 氏

Q1 最近、当社の社員でガンにかかった人がいます。幸い早期の発見だったようで、復帰も早いようです。従業員がガンにかかった時の対応を教えてください。

A1 日本人の2人に1人がガンにかかり、3人1人がガンで死亡しているそうですが、「働く世代」のガンも増加しています。

増加の原因としては次の3つが考えられるそうです。

- ①女性とシニアの就労人口が就労人口の5割を超えたこと(20代～40代は女性の方がガンになりやすい。60歳以上の男性のガンは急増)
- ②乳がんになる人が増加している(12人に1人)
- ③医療の進歩により、ガンの5年相対生存率が少しずつ改善され、ガンになっても働ける人が増えている。(内視鏡治療や腹腔鏡治療など身体に負荷が掛からない治療により早期に職場復帰可能も要因)

ある日突然ガンと診断された従業員は次のような不安があるようです。

- ・治療に伴う不安(手術・科学療法・放射線療法)
- ・経済面・費用に伴う不安
- ・働くことへの不安(復職できるかなど)
- ・メンタルヘルス(再発・死への不安)

社員から「ガンになったのでしばらくお休みしたい」と申し出られたら、会社の対応としては、

- ①お見舞いを告げる
- ②医師からの診断書をもらう
- ③連絡先の確認(家族・病院名など)
- ④療養中の待遇(休職期間・療養中の給与・傷病手当金)の説明をなるべく文書で渡し、安心して治療できる環境づくりに徹して下さい。

厚生労働省では「事業場における、治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を作成しています。確認しておいた方がよいでしょう。

Q2 ガンの種類によって休む期間が異なると聞きました。また、復帰後の働き方はどうしたら良いでしょうか？

A2 社員が病気で長期間働けなくなる理由の第1位は「うつ病、適応障害などのメンタルヘルス」、第2位は「ガン」、第3位は「脳卒中」、第4位は「心筋梗塞」、第5位は「腰痛」と「外傷」だそうです。保険会社の調べによると、三大疾病の中で働けなくなる割合が最も高い病気が「ガン」だそうです。

私の知り合いの方で「白血病」にかかった方がいらっしゃいますが、治療をしながら何年も働いていると聞き、ご本人の努力もさることながら現代の医学はすごいなぁと感じています。内視鏡による治療や部分的な外科手術など、全身への負荷が少ない治療で済む場合、年休の範囲内で治療ができるケースとなり、復職もスムーズになると思います。

次に、治療が長く掛かり休職(病休)の対応となるのは、開腹手術や長期の抗がん剤治療、放射線治療等が必要な場合など、年休では足りない程の長期間の療養が必要となるケースです。

一般的に、病休日数はガンの種類ごとに異なります。「がん種ごとの復職までかかる平均日数」は、胃がん124日、大腸がん136.5日、乳がん209日、子宮がん172日、前立腺がん124.5日。退職率が高いのは食道がん、死亡率が高いのが胆管がん・すい臓がん等です。

ガンにかかっている従業員の多くは、治療に伴う疲労、痛み、食欲不振、睡眠障害などがあるため、「十分な病休期間」と復職時の「短時間勤務制度」がポイントです。従業員がガンになっても離職しないためには「働き方改革」が必要です。復職後2年間、就業上の配慮をすれば、離職率はかなり減らせるというデータもあります。

【社会保険労務士法人 ハーモニー】

TEL 043-273-5980